

「らくらくノート」の活用効果

福島県郡山市立桜小学校教諭 阿部 美枝子

はじめに

新年度のノート採択にあたって「らくらくノート」を選択したのは、「ノート作りの指導を行っていく上で、どの子どもにも決まった形式で基本のノート作りを徹底させていけそうだ」と感じたからです。



▲「らくらくノート」は、新学社版「くりかえし計算ドリル」に完全対応した、すっきりきれいにドリル練習ができるノートです。

これまで中学年を何度か受け持ってきて、ノート採択に関しては「中学年向き」の指定の中から選ぶばかりでした。しかし、低学年で使用していた大きな罫線やマスからの切り替えに戸惑う子がいることと、中学年でのノート作りには、高学年やその後の学習の取り組みの基礎を作る大切な役割があることを痛感していました。

「3年生」という実態

3年生になると、子どもたちの方も「ギャ

ングエイジ」と称される通り、急に文字が乱れてきたり、わざと急いで書いてみたりして、低学年までの姿勢が崩れがちになる子が出てきます。ノート記録やその方法について、ていねいに指導しているつもりでも、気がつくのと全く別の方法で記録しているのを見つけることがあります。なかなか一律にはいかず難しいのが現状です。保護者から、「急に大人びてきて、言うことをきかなくなった」「口のきき方が変わってきた」と相談を受けることが増えるのも同時期で、子どもたちの成長に対応した指導も工夫していかなければなりません。これは算数に限らず教科全般に共通することですが、文字の乱れをなくすこと、ていねいに取り組む気持ちを育てていくことなど、低学年の時とはまた違った意味での学習を通したノート作りを、常に心がけていくことが大切になってきます。

3年生の算数と「らくらくノート」

そんな中で、3年生の算数では何といっても計算ノートが重要になってきます。3年生には、わり算をはじめかけ算の筆算、図形、棒グラフ、時間の概念、さまざまな単位など、初登場の基礎となる内容が網羅されると言っても過言ではないでしょう。

この「らくらくノート」は、そのすべての基礎・基本をおさえ、補える内容で工夫されているのではないかと考えました。一般のノートより割高感はあっても、ノート作りの

基礎をより統一させていくことができる、能力差があるとしてもどの子にも同じように取り組ませることができ、そんな安心感を抱いての選択でした。

ノート作りと指導の実態

これまでは、計算問題に取り組むにあたって、子どもの実態に合わせながらも、

- ① 1マスにひとつの数字（計算では必ず）
- ② 次の計算は、1マスや1行の間隔をとる
- ③ 式や大きな数などは1行で表す
- ④ 線は定規を使う

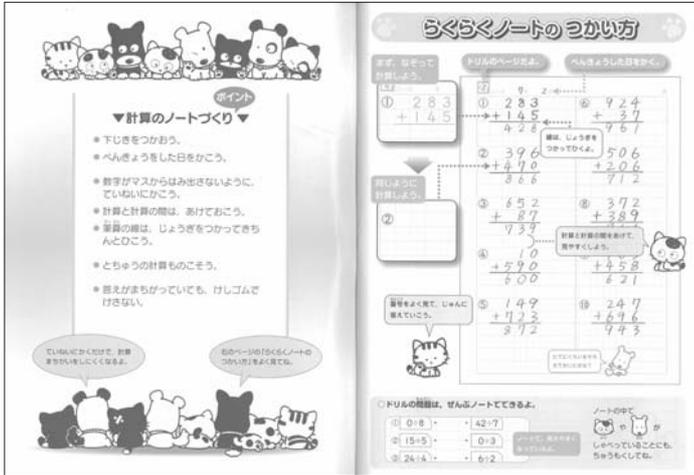
など、低学年でもやってきた基本と言えることを約束として取り組ませてきました。しかし、時間の経過とともに扱う数字もだんだん大きくなり、数も増え、慣れもあって、指導する私たちも「もう大丈夫かな」と思ってしまうがちです。後になって、ノートの取り方が悪かったために混乱している子どもの姿を見つけては、再度約束を確認したり、やり直しをさせたりして、ノート作りの指導を個別に重ねていくしかありませんでした。

「くり返し重ねて指導する」ことは教育の基本だと言えますが、ノート作りの指導を重ねていく時間はなかなか取れないのが現実です。学習内容の理解をはかっていたり深めたりすることの方が重要になってきてしまうからです。これが実に時間がかかります。個別指導のほとんどがこれに費やされるのが実際でしょう。

効果倍増!

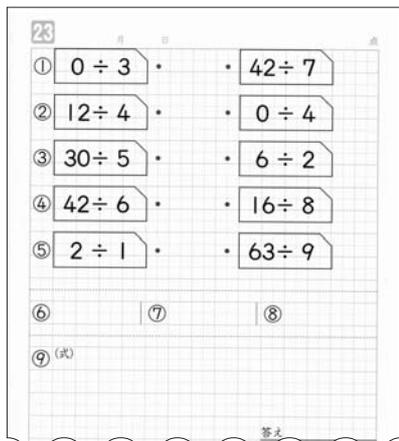
わたしの教材活用術

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？
このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

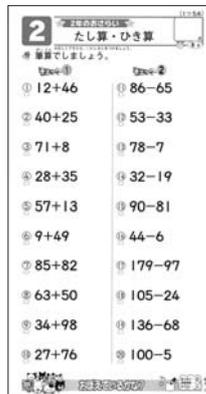


▲表紙裏の見開き

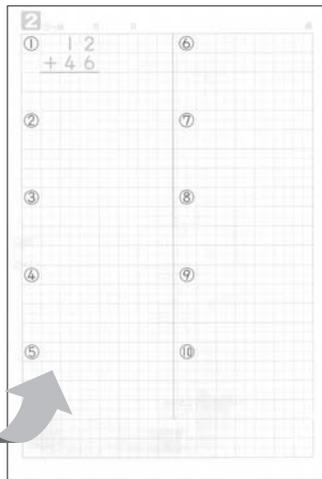
「らくらくノート」を使用して
この問題を簡潔に解決してくれそうなのが
「らくらくノート」でした。
実際に使用してみると、実に子どもたち側
にとってわかりやすく、しかも楽しく工夫さ
れているので、指導する私たちにとっても見
やすく、子どもたちの取り組みが一目瞭然で
わかり、扱いやすいものとなっています。
利点を挙げてみましょう。
(1) 初めの見開きに、計算のノート作りのポイ
ントや「らくらくノート」の使い方がわか
りやすく掲載されている。



▲計算以外の問題もすべてノートでできる



▼ドリルのページと対応



(2) ドリルの問題に対応した書き出しになっている
(最初の問題は、なぞり書きでスタート)。
(3) 計算と計算の間隔がすっきり取れるように
番号が指定されている(すぐに計算に取り
かかることができる、効率的に時間を計算問
題に使うことができる)。



▲付録「がんばり賞」シール

(6) 裏表紙の裏には「べんきょうのきろく」が
あり、「がんばり賞」シールを貼って子ど
も一人ひとりへの賞賛ができる。
(5) 最後に自由ページがついている(くり返し
行うドリル計算のスペースなどに利用でき
る)。



▲キャラクターのコメント

(4) 余白にあるキャラクターのふき出しコメン
トが要点をついていて、子どもたちへの支
援や励ましになっている。

このように、子どもたち側にとつての利点が多いのです。これは、指導する私たちにとつても利点になる、つまり、子どもの様子がわかりやすく、助けてもらえている、と言えるのではないかと思います。ドリル番号が指定されているノートなので、全員必ず最低でも1回は全部やり通したことが確認できます。子どもにとつても手のつけられていないページが「まだやっていなかったところ」とはつきり知ることができ、能力差に関係なく「やらなくちゃ」という気持ちを引き出させることになりました。

くり返すための工夫

「らくらくノート」は「くり返し計算ドリル」に合わせたものですが、一回きりしか書き込めません。くり返し取り組ませるためにもう1冊ノートを準備することも考えましたが、保護者の負担や、子どもたちの準備や活用の負担を考慮して、無理に用意はしませんでした。授業用ノートを兼用し、復習としてドリル計算を行ったり、ドリル用のミニテスト用紙を準備してドリルを使用したりして、何とかくり返しのドリル学習を行っています。

最後に

教科書にも「ノート作り」が取り上げられるようになりました。単元のまとめとして、「わかったこと」や「感想」など、子どもた

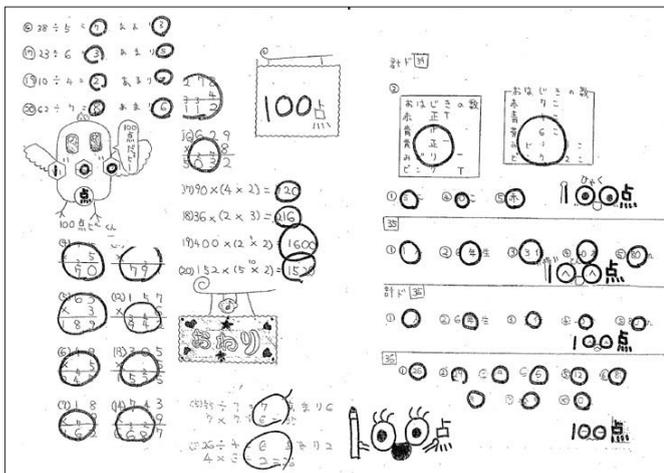
ちが理解したことを文章や数式や図を取り入れて自由に書き表します。また、最近の書店には、『東大合格生のノートはかならず美しい』（太田あや著・文藝春秋発行）という本も並んでいます。ノート作りの重要性が益々高まってきているのでしょう。

高校入試に、小学校中学年で習ったことが出題されることがあるように、学習の基礎・基本のスタートとして中学年は大事だと思います。ならば、できるだけ時間を有効に使い、学習内容の理解を深め徹底をはかっているために、授業を大切にしていかなければなりません。そして、くり返し学習に取り組ませる練習とそのノート作りが大事になってきます。その中のひとつとして、算数での「らくらくノート」の活用は、誰が見てもわかるノート作り」に役立つと言えます。

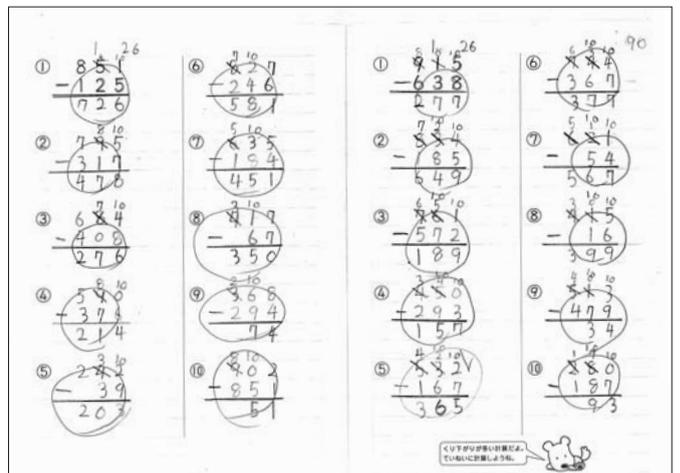
子どもたちの変化

子どもたちの中に、ノート作りを楽しむ様子が見られるようになっていきます。特に女子は、書いている本人が一番楽しいのでしようが、見ている側にもその楽しさが伝わってきます。

自らが進んで楽しくノートをまとめていく——これほど貴重な勉強法はないのかもしれない。これがかきつけとなって、他の教科へと広がり、つながっていくことを願うばかりです。



▲授業用ノートでくり返し練習をする時も、楽しくまとめています。



▲「らくらくノート」を使ったドリル学習